

<2014年11月9日湘南レース・レポ>

最初に書いておきます。今月は1位になりました・・・でへへ。今年初の1位です。ヤッホ～！！

今日のメンバーは

ヘルム・・・五明

メイン・・・磯部

ヘッド・・・柳瀬

バウ・・・カトー

の4人。いつもの鈴木さんや体調がよければの大寺さんが参加していないので65歳以上ボーナスの1%はもらえない。今日は軽風予報なので操船は4人でも大丈夫そうだ。そう思っているとなんとシャークXも今日は4人だそうだ。

9時15分出艇。寒くなりそうだとフリースまで着込んできたが、ポカポカと暖かくアンダーにTシャツ、下だけカップを着る。秋谷に着くと風が5mくらいまで上がってきた。北風なのに白波もチラホラ。それでも風は落ちると判断してジェノアをスタンバイ。

今日のコースは秋谷沖～城ヶ島南西沖ブイ～秋谷沖。我々の作戦は11時半頃の干潮まで、引き潮の強い沖を走り、南西沖ブイを回ったらその後東南東に振れる予報の風を拾いに城ヶ島に寄せ、あわよくば南に回った風でスピンを張ってGOGOGO！行きも帰りもスピンだぜ作戦！を狙う。毎回作戦を立てるがその通りいったことはほとんどない。では海面を見てから決めればいいのでは・・・と思われるかもしれないが、この作戦を練っている時がヨットレースが一番楽しいのだ。なぜかその作戦の妄想シュミレーションの中では、自分たちの艇にだけいい風が吹き、走るコースには追い潮が流れ、絶妙な位置でタックし、ここしかないというポイントでジャイブも決まる。なんの根拠もない自信がレースに駆り立てるのだ。そう、スタートするまではまだ誰もビリではない。

10時30分スタートの1分前。スタートは北東の風、一斉ランニングスタート。我々はスタボーアアプローチしてスタートとともにジャイブしてポート側で

スピニアップの段取りで準備。ところが我々の前に来たシャーク X がスピンをスタンバイしているのを見るとなんとスタボーサイド?! あれれ?すると柳瀬さんが「風が変わった! スタボーで上げよう!」と急いでスピンバックを付けたままシートとガイを回して男前なギアチェンジ。やや遅れてスピンが上がり、落ち着いて廻りを見回すと冲出しした艇団と岸寄りに向かう艇団とふたつに別れた。もちろん我々は沖の下げ潮に乗って GOGOGO 作戦だ。いいスタートを切ったシャーク X がかなり先の方へ行ってしまった。ライバルのバーバリアン、風太郎はやや後方に、その後岸よりコースへと向かった。前方 150m 位にモーニングスター。レーティング的に勝たなくてもいいが離されてはいけない。風は細かく振れるものの 3~5m くらいで安定して吹き、諸磯沖あたりで南西沖ブイも視認。ちょうど諸磯ヨット倶楽部 (たぶん?) のレースも南西沖コースらしく、小網代沖をスタートしているその艇団が水先案内人となってブイの場所を教えてくれる。天気もいいし絶好のレース日和だ。

城ヶ島を過ぎるといよいよ南西沖ブイへのアプローチだ。トップ艇が 11 時半頃回航。秋谷から 1 時間だ。スタボーからポートへ、先行する大型艇がジャイブをするもブイまで落とせず再度ジャイブをするシーンが目につく。我々は先行艇のジャイブポイントでブイとの見通しで落としかれるか確認してからジャイブすることを選択。1 艇目はブイよりかなり前を走っている・・・まだだ。2 艇目は「あれ、ポールが前だ?!」風が振れたのか我々も慌ててジャイブ。ラインを見るとかなりのオーバーセール。しかしこれで安心、あとはいいアプローチをしよう!

南西沖ブイはいつも潮が強い印象がある。今回も回りきれずにブイにへばりついている艇を何艇か見た。潮で押されることも考え、少しオーバー気味に回ることにする。我々の前 2 艇はブイの手前 100m くらいですでにスピンを降ろしている。すぐ前はモーニングスターだ。スピンを張っている我々の方があきらかにスピードがある。どんどん差を縮めて 2 艇身ほどに詰め寄る。そしてブイ直前でスピンドウン! すぐさまクローズで・・・のはずだったがスピンが降りてこない??? カトー、またやってしまいました! スピンハリをマストのカムにかけたまま! そりゃ降りない (涙)! かくしてバタバタやっているうちに後続艇にインに入れられタックもできない状況に。作戦では城ヶ島に寄せる予定

だったが風が振れてこのままでは千葉に、いやハワイに向かってしまう。タックしたいが後続艇がなかなかタックしない。「早くタックしてよ」「トラブってるのかな」さっきまでトラブってたのはこっちなのに、他の艇の心配をしている。と、やっとタック。すぐにこちらもタック。しかし走ってはいるが潮に押されてまったくゲインできていない。「なんか戻されてるね。ブイがずっと同じ位置に見える」今まで味方だった追い潮ちゃんが、ブイを回った途端向い潮ちゃんに。当たり前だがガックシ。味方だと思ってたのに、もう 12 時だよ、干潮は終わったから上げ潮だろ！時間通り上げ下げしろ～！！

そんなボヤきに答えてくれるはずもなく「同じ進まないなら東を拾いに城ヶ島方向へ行こう」と再びタック。この辺りからクラスは違うが FUHTA DE PASSER (Vite31) と共に潮と振れる風に悩まされながらミートしはじめる。「リフトだ」「ヘッダーだ」とタックしていると「あら、また FUHTA さん」FUHTA さんにとっては弟分のイオロスに絡まれるのは心外だろう。

しかしもっとかわいそうなのは往路岸寄りコースを選んだ艇団。みんな撃沈して我々が城ヶ島に向かって迷走しているところを 1 クラスの ZETA、TRACER などが南西沖ブイを目指してすれ違う。バーバリアンなどはさらにその後ろだ。

ライバルのバーバリアンとは、このリードを保ったままフィニッシュしたい。しかしその思いは虚しく遂に艇は停まってしまった。いや潮に押されて時々バックもしている。時間ばかりが過ぎていく。すると後ろの方からエンジンの音。ZETA がリタイヤして機走で帰って行く。

なんかデッキの上ではタイムリミットの 15 時半までにフィニッシュできるか？の話になる。柳瀬さんの GPS の到着予定時刻では今のスピードでは間に合わないと出る。こんなに天気がよくていい位置を走っているのに、なんか暗～い空気が漂う。今に東が吹く、岸に寄せよう。きっと東が吹くよ・・・しかし東は吹かなかった。そのかわりなぜか北が吹きはじめた？！予報と違うけどもう東だろうが北だろうが風ならなんでもいい。頑張ろう！さっきまで並んでいた FUHTA DE PASSER が冲出ししていたため俄然有利に走りはじめた。こうなったらタイムリミットとの勝負！ここまできたんだからなんとしてもフィニッシュしたい！着順が欲しい！時計を見ればあと 1 時間を切っている？！ここからの 1 分 1 秒は大切だ！

北風は細かく振れるもハイクアウトできるパワーを与えてくれ 5 ノットくらいで艇は走る。フィニッシュラインを確認。スタートの時より、少し南に出ているよう

だ。ありがたい、この1分2分が明暗を分けるかもしれない。亀城沖であと30分。なんとかタイムリミットにひっかからずにすみそうだ。フィニッシュラインはアウトターの方が近いと判断し、アウトターサイドでフィニッシュ。ホーンを聞いた。今回諦めずリタイアせずによかった。たぶん後続艇はタイムリミットにひっかかるからモーニングスターが先にフィニッシュしているかどうかで成績が決まる。

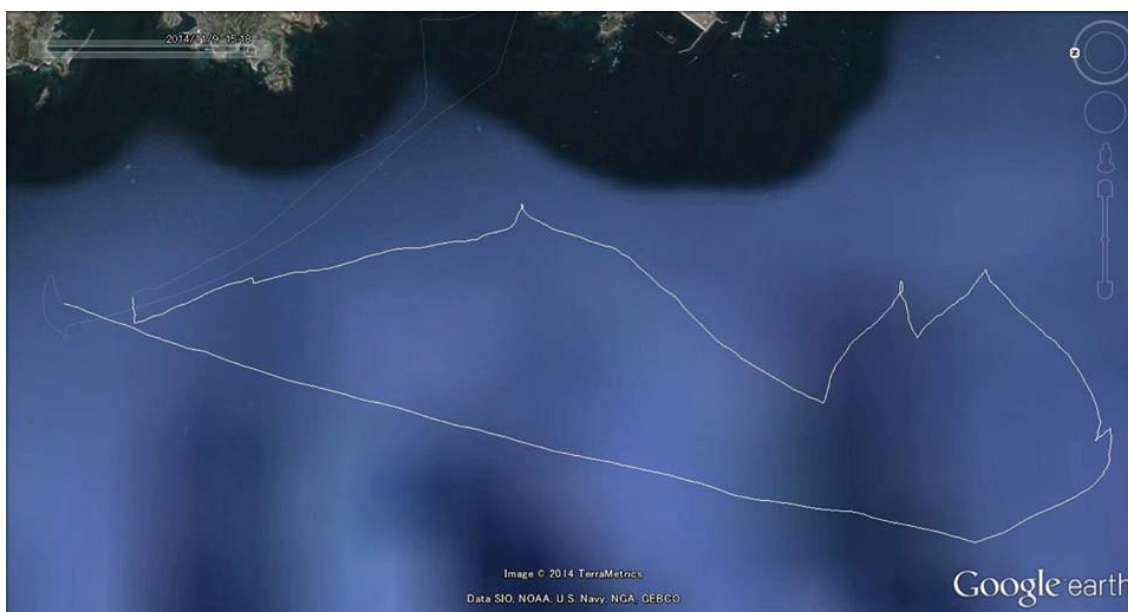
家に帰るとすでに成績が出ていてNクラスAグループではフィニッシュしたのは、フォルタレーザII、1艇のみ。他は皆DNF、RET。とすることで1位の成績を今年初めて獲得しました～パチパチパチ。

年間総合成績もバーバリアンの250点に次ぐ246点に迫り、12月の最終レースにまだ望みを託せる4点差となりました。

今回のレースの勝因は諦めなかったこと。しつこくりタイアせず最後まで走ったこと。あと天気予報はあまり信じちゃいけないと反省。しかし天気もよく達成感を得られた楽しいレースでした。

オーナー、今年もようやく1回勝ちましたよ～！！

フォルタレーザ・カトー



昨日の航跡。海から目線で東を上にしてあります。